令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	一般財団法人住友生命福祉文化財団
施設名	住友生命いずみホール
内定額	21,388　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
公-01	ベザイデンホウト＆フライブルク・バロック・オーケストラ	令和7年4月2日	住友生命いずみホール
公-02	小菅優いずみ室内楽シリーズVol.2	令和7年6月20日	住友生命いずみホール
公-03	いずみシンフォニエッタ大阪第54回定期演奏会	令和7年7月12日	住友生命いずみホール
公-04	和のいずみ　第3回	令和7年8月30日	住友生命いずみホール
公-05	モーツァルト ピアノ協奏曲の旅〈ウィーン編〉Vol.2	令和7年10月16日	住友生命いずみホール
公-06	バッハ企画　佐藤俊介と仲間たち「バッハのプリズム」	令和7年10月24日	住友生命いずみホール
公-07	フランス・オルガン音楽の魅惑　カロル・モサコフスキ	令和7年11月15日	住友生命いずみホール
公-08	バッハ企画　鈴木優人＆バッハ・コレギウム・ジャパン	令和7年12月6日	住友生命いずみホール
公-09	いずみシンフォニエッタ大阪第55回定期演奏会	令和8年2月11日	住友生命いずみホール
公-10	バッハ企画　ベルリン・古楽アカデミー	令和8年3月7日	住友生命いずみホール
人-01	M.ブヴァール　オルガン・マスタークラス	令和7年11月16日	住友生命いずみホール
普-01	住友生命いずみホール　オープン・ハウス2025	令和7年4月5日	住友生命いずみホール
普-02	バッハ企画　レクチャー・コンサート「アンナとファニー　その“声”を聴く」	令和7年7月25日	住友生命いずみホール
普-03	いずみ子どもカレッジ2025	令和7年8月2日	住友生命いずみホール
普-04	第25回住友生命いずみホール夢コンサート	令和7年10月21日	住友生命いずみホール
普-05	音楽講座	令和7年12月26日	住友生命いずみホール
普-06	第26回住友生命いずみホール夢コンサート	令和8年3月5日	住友生命いずみホール

（2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	46	49	51
	公演事業	27	25	25
	（内、本助成対象事業本数）	13	11	10
	人材養成事業	1	2	2
	（内、本助成対象事業本数）	1	2	1
	普及啓発事業	6	5	6
	（内、本助成対象事業本数）	4	5	6
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　共催公演	12	17	18

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	154	150	199
	ホール名：住友生命いずみホール　座席数：821	154	150	199
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	24,227	21,857	23,196
	公演事業	13,789	12,706	13,579
	人材養成事業	196	346	63
	普及啓発事業	2,821	2,210	2,654
	共生社会事業			
	その他　内容：　共催公演	7,421	6,595	6,900
	貸館事業入場者・参加者数	66,651	75,490	79,228
	その他　内容：			
	計	90,878	97,347	102,424
開館日数		200	199	214
施設の利用可能日数　（＝365－（保守点検日数+休館日数））		310	300	300
施設の利用日数		200	199	214
施設の利用率(%)　（＝利用日数/利用可能日数）		64.5%	66.3%	71.3%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	30	34	16,806		30					
	共催・提携公演（※2）	22	12	7,421		22					
	貸館公演	122	154	66,651		122					
	計	174	200	90,878							
令和6年度	主催公演（※1）	32	32	15,262		32					
	共催・提携公演（※2）	17	17	6,595		17					
	貸館公演	150	150	75,490		150					
	計	199	199	97,347							
令和7年度	主催公演（※1）	33	33	16,296		33					
	共催・提携公演（※2）	18	18	6,900		18					
	貸館公演	199	199	79,228		199					
	計	250	250	102,424							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	ベザイデンホウト＆フライブルク・バロック・オーケストラ	目標値	462	60.0%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	95.80%
		実績値	543	70.5%			
公-02	小菅優いずみ室内楽シリーズ Vol.2	目標値	433	56.2%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	94.70%
		実績値	408	53.0%	専門家による批評記事	1件以上	2件
公-03	いずみシンフォニエッタ大阪第54回定期演奏会	目標値	394	51.2%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	96.30%
		実績値	482	62.6%	専門家による批評記事	2件以上	2件
公-04	和のいずみ　第3回	目標値	510	66.2%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	97.30%
		実績値	625	81.2%			
公-05	モーツァルト ピアノ協奏曲の旅〈ウィーン編〉Vol.2	目標値	548	71.2%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	97.60%
		実績値	715	92.9%			
公-06	バッハ企画　佐藤俊介と仲間たち「バッハのプリズム」	目標値	424	55.1%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	86.80%
		実績値	463	60.1%	専門家による批評記事	1件以上	3件
公-07	フランス・オルガン音楽の魅惑　カロル・モサコフスキ	目標値	394	51.2%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	100%
		実績値	373	48.4%	専門家による批評記事	1件以上	0件
公-08	バッハ企画　鈴木優人＆バッハ・コレギウム・ジャパン	目標値	471	61.2%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	97.60%
		実績値	681	88.4%	専門家による批評記事	1件以上	1件
公-09	いずみシンフォニエッタ大阪第55回定期演奏会	目標値	394	51.2%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	94.20%
		実績値	427	55.5%	専門家による批評記事	1件以上	3件
公-10	バッハ企画　ベルリン・古楽アカデミー	目標値	462	60.0%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	98.50%
		実績値	630	81.8%	専門家による批評記事	1件以上	0件

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	一般財団法人住友生命福祉文化財団
施設名	住友生命いずみホール
内定額	21,388　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等)」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	ベザイデンホウト＆フライブルク･バロック･オーケストラ	クリスティアン・ベザイデンホウトとフライブルク・バロック・オーケストラを迎え、「世界との扉」を体現する企画として実施した。18 世紀の演奏様式に根ざした極めて質の高い演奏は来場者・関係者から高い評価を得るとともに、券売は目標を大きく上回り、収支面でも改善が見られた。さらに NHK による収録や日本経済新聞での批評掲載など波及効果も大きく、当ホールの芸術的独自性と発信力を示す象徴的な公演となった。
公-02	小菅優いずみ室内楽シリーズ Vol.2	小菅優との協働によるオリジナル企画として、「愛」をテーマに歌曲とピアノによる多彩な世界観を提示した。イタリア語･フランス語･ドイツ語の歌曲を横断する独自性の高い構成と、出演者同士の深い信頼関係に裏打ちされた質の高い演奏は来場者から高い評価を得た。一方で集客面では苦戦したものの、当ホールならではの企画性を具現化するとともに、将来を見据えた小菅優との継続的な協働関係を深化させる意義深い公演となった。
公-03	いずみシンフォニエッタ大阪第 54 回定期演奏会	いずみシンフォニエッタ大阪の歩みを象徴する公演として、西村朗作品を軸に楽団と作曲家の深い結びつきを示す高水準の演奏を実現した。三団体合同企画による広域発信や大阪以外からの来場促進など新たな広がりも生み、来場者・音楽関係者から極めて高い評価を得た。加えて、直前の出演者変更という困難を乗り越え、楽団の高い対応力と結束を示したことは大きな成果であり、藤倉大新体制へ向かう転換点としても意義深い公演となった。
公-04	和のいずみ　第 3 回	片岡リサプロデュースによる「和のいずみ」シリーズの集大成として、人形遣いを交えた文楽上演を実現し、大阪の文化資源を新たな視点で発信する意義深い公演となった。若手演奏家の起用、新作委嘱、文楽座との協働など多層的な企画性を備え、芸術性と地域性を高い次元で両立した。券売は目標を大きく上回り、来場者・出演者双方から高い評価を得るとともに、シリーズ継続を望む声も多く、新たな展開へつながる成果を残した。
公-05	モーツァルト　ピアノ協奏曲の旅〈ウィーン編〉Vol.2	大阪フィルハーモニー交響楽団との協働により、「室内楽的な丁寧な音楽づくり」というシリーズ理念をさらに深化させた公演となった。下野竜也による緻密な構成と配置の工夫は、当ホールの響きを生かした独自のモーツァルト像を鮮やかに提示し、務川慧悟の充実した演奏も高い評価を得た。券売は目標を大きく上回り、青少年向けリハーサル見学会の実施も含め、芸術性と普及性を兼ね備えた成果ある公演となった。
公-06	バッハ企画　佐藤俊介と仲間たち「バッハのプリズム」	佐藤俊介の豊かな構想力を核に、バッハと関連作曲家を独自の視点で再構成した意欲的な公演となった。新たに結成したアンサンブルによる躍動感ある演奏は来場者から高い評価を得るとともに、券売も目標を上回り、セット券の販売を含めシリーズの広がりを着実に示した。当ホールならではの企画性と芸術的独自性を体現し、継続するバッハ・シリーズの価値を一層高める成果ある公演となった。

公-07	フランス・オルガン音楽の魅惑　カロル・モサコフスキ	フランス製パイプオルガンの特長を最大限に生かし、カロル・モサコフスキによる高度で色彩豊かな演奏を通じて、当ホールならではの音楽体験を提示した意義深い公演となった。来場者満足度は高く、即興演奏を含む多彩な内容はフランス・オルガン音楽の魅力を深く伝える機会となった。一方で券売は目標に届かなかったものの、当ホール固有の文化資産であるオルガンの価値を広く発信し、今後の聴衆育成とシリーズの発展につながる重要な取り組みとなった。
公-08	バッハ企画　鈴木優人＆バッハ･コレギウム･ジャパン	鈴木優人とバッハ・コレギウム・ジャパンによる質の高い演奏と独創的な企画構成により、芸術性・集客・収支の各面で極めて優れた成果を上げた公演となった。シリーズの柱となるバッハのカンタータを軸に据えた王道のプログラムが来場者の期待に的確に応え、高い満足度と券売実績につながった。また、鈴木氏の高い企画力・発信力・演奏力を改めて示す機会ともなり、今後のホール事業における重要な協働関係を再確認する公演となった。
公-09	いずみシンフォニエッタ大阪第 55 回定期演奏会	藤倉大を新たな音楽監督に迎えて開催した最初の定期演奏会として、新たな視点を積極的に取り入れた意欲的な企画を実現した。いずみシンフォニエッタ大阪の高い演奏技術と創造性が存分に発揮され、現代音楽の新たな可能性と「世界基準」を志向する楽団の方向性を鮮明に示す公演となった。芸術的成果は極めて大きく、今後の活動の礎となる象徴的な一公演として高く評価できる。
公-10	バッハ企画　ベルリン・古楽アカデミー	ベルリン古楽アカデミーを迎えた本公演は、「バッハ 2025 綾なす調和」シリーズの集大成にふさわしく、極めて高い芸術性と優れた事業成果を両立した公演となった。器楽アンサンブルの響きそのものを通してバッハ音楽の本質に迫る企画意図は来場者にも明確に伝わり、演奏内容への満足度も非常に高かった。また、企画意図である「楽器は語る」が演奏を通して鮮やかに体現され、来場者の高い満足度と良好な券売実績にも結びついた。芸術性と事業性の両立を示す成果となり、「バッハ 2025 綾なす調和」シリーズの締めくくりにふさわしい公演となった。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

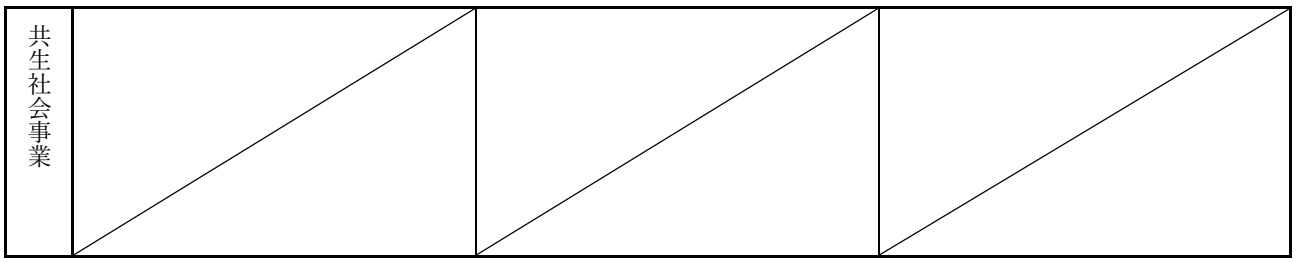
評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	●ビジョン 1「独自の主催公演」 ・必須データ参照 ●ビジョン 2「発信力の強化」 ・事前事後の記事の件数 ・ホームページビュー数 ・X の平均インプレッション ●ビジョン 6「ネットーワークの活用と強化」 ・公演チラシの配布枚数 ●ビジョン 7「経営基盤の安定化」 ・有料会員の占率。 ●レジデント・オーケストラ／いずみシンフォニエッタ大阪 ・公－3、9：入場者数、アンケートの満足度 ・公－3、9：記事件数 ・公－3、9：ISO Youtube チャンネル再生回数 ・公－3、9：ISO Youtube チャンネル登録者数	・券売数、アンケート満足度 ・公演事業で概ね 35 件 ・年間 100 万回以上を維持する。 ・現状の平均 3,000 回を維持する。 ・製作部数の 85% ・要望書記載のとおり。 ・各公演 394 名、アンケート上位 2 項目 80%以上 ・概ね 12 件 ・年間で 2 万回再生を目標とする。 ・現在の登録者数 850 名から 900 名を目指す。	・アンケート 95.88%◎ ・公演事業で 80 件◎ ・約 138 万回◎ ・2969○ ・製作部数の 87%◎ ・達成度 1◎2◎3◎4▲5○6◎7○8◎9◎10○ ・492/197、96.3%/94.2%◎ ・29 件◎ ・24,728 回◎ ・930 名◎
人材養成事業	●ビジョン 5「次世代の音楽文化の担い手の育成」 ・受講生応募数 ・聴講生人数 ・参加者の事後アンケート結果 ●ビジョン 2「発信力の強化」 ・X の平均インプレッション	・受講応募者 8 ～ 9 名を見込んでいる。（倍率 2 倍程度） ・聴講者数１００名 ・アンケート上位 2 項目 80%以上 ・現状の平均 3,000 回を維持する。	・受講応募者 13 名◎ ・聴講者数 59 名▲ ・アンケート上位 2 項目 80%以上◎ ・2969○
普及啓発事業	●ビジョン 1「独自の主催公演」 ・アンケート満足度 ●ビジョン 4「『誰もがクラシック音楽に親しめる』音楽文化の拠点」 ・入場者数 ●ビジョン 2「発信力の強化」 ・X の平均インプレッション	・アンケート上位 2 項目 80%以上 ・平均入場者数 580 名 ・現状の平均 3,000 回を維持する。	・アンケート上位 2 項目 80%以上◎ ・平均入場者数 442.3 名▲ ・2969○



（※３）・（※４）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

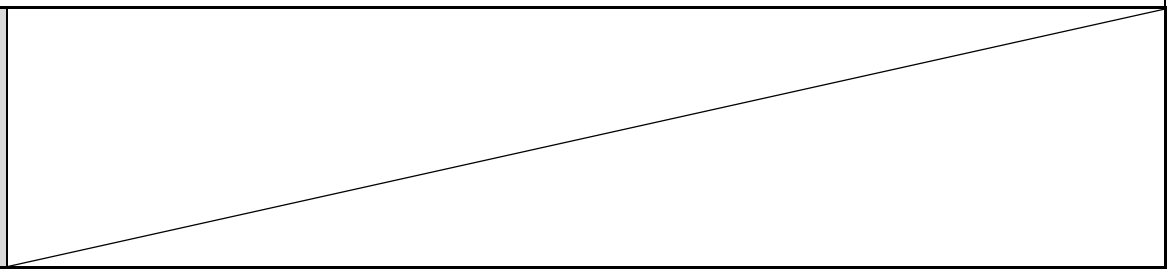
成果報告書　　住友生命いずみホール

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	独自性の高い主催公演を継続的に実施し、高度な芸術性と地域性を両立した事業展開を行った。来場者アンケート満足度は 95.88%と極めて高い水準を維持し、鑑賞体験の質の高さが裏付けられた。また、記事掲載件数は目標を大きく上回る 80 件、ホームページ閲覧数も約 138 万 PV に達し、発信面においても大きな成果を挙げた。さらに、いずみシンフォニエッタ大阪を核とする継続的な創造活動においては、高い来場満足度に加え、動画配信や情報発信面でも成果を上げ、当ホールの創造拠点機能を広く社会に示すことができた。 有料会員比率について一部の公演で目標値に届かない結果も見られたが、これは会員基盤の弱体化というより、デジタル接点や記事露出等を契機とした新規来場者・非会員層の流入拡大を反映した側面もあり、観客層の広がりを示す前向きな変化として捉えている。

人材養成事業	
自己評価	次世代の音楽文化の担い手育成を目的とした人材養成事業では、受講生募集において目標を上回る応募を得るとともに、参加者アンケートでも高い満足度を維持し、質の高い学びの機会を提供することができた。実演芸術の現場に直接触れる機会を通じて、若い世代の育成と地域文化の継承に寄与した。一方で、聴講者数は目標値に届かず、より広い層への訴求には課題も残った。今後は受講機会の質を維持しながら、発信方法の工夫により周辺層への波及拡大を図っていく。

普及啓発事業	
自己評価	普及啓発事業では、年間 6 事業を通じて、クラシック音楽に親しむ入口となる多様な機会を継続的に創出し、来場者アンケートにおいて高い満足度を維持した。SNS 等を活用した情報発信により継続的な接触機会の創出にも努め、音楽文化の裾野拡大に向けた基盤整備を進めた。平均入場者数は 442.3 名と目標値には届かなかったものの、一定の来場規模を確保しつつ、事業の質的評価は高水準を維持している。アンケート分析を通じて、若年層や初回来場者の来場動機には、教育機関、出演者、口コミ等を起点とした接点形成が有効であることが明らかとなり、今後の普及施策の方向性を具体的に見出す成果につながった。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
「ミッション」…世界とのドア ●世界的アーティストの起用(ビジョン①・②)		
・公－１、２、６、７、８、１０：入場者数、アンケート満足度	・基礎データと同じ。	・入場者数：１◎２○６◎７○８◎１０◎／アンケート◎
・人－１：参加者数、アンケート満足度	・独自データ①と同じ。	・受講者+聴講者:72 名○
●政府機関、民間団体との協力 ・公演ごとに諸機関との連携	・ドイツ、フランス等政府機関との連携（公ー①、⑦）	・公①＝ドイツ文化センター後援、公⑦フランス大使館後援。加えて、公 10＝本国のゲーテインスティトゥートの援助◎他在関西の総領事を要所要所に招待。
・大阪国際交流センターを通じて留学生を招待する。	・一部公演で実施予定、年間のべ１００名程度。	・いずみシンフォニエッタ等で実施約 70 名○
●英語版 HP 閲覧数	2024 年度比+20%	2024 年度比+22%○

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	海外の優れた演奏家・団体を継続的に招聘し、地域にいながら世界水準の実演芸術に触れる機会を安定的に創出した。対象公演では入場者数・来場者満足度ともに高い水準を維持しており、国際的な芸術発信が一過性の話題性にとどまらず、地域の聴衆に確かな受容基盤を形成していることが確認できた。加えて、人材養成事業においても国際的視野を備えた学びの機会を提供し、受講者・聴講者の参加を得て、次世代育成への波及効果も生み出した。 また、ドイツ文化センター、在日フランス大使館、ゲーテ・インスティトゥート等の文化機関や大阪国際交流センターとの連携、在関西の総領事館との関係構築など、鑑賞機会の提供を超えた人的交流・文化交流を実現した。さらに英語版ホームページの閲覧数は前年比 22%増と目標を上回り、グローバルな視点での創客・情報発信の両面において着実な成果を上げた。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	・利用者からの申請に応じ協力、協賛等（割引等の優遇あり） ・閑散期、直前申込等への割引 ・リハーサル利用プラン
	・自由設定の観点（任意）（※3）	

（※2）・（※3）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
●ビジョン3「地元アーティストとの協働」 ・事業への地元アーティスト起用	・公演事業 10 事業のうち、4 本で実施。	・計画通り実施◎
	・普及啓発事業 5 事業すべてで実施。	・計画通り実施◎
●ビジョン4 「『誰もがクラシック音楽に親しめる』音楽文化の拠点」 ●ビジョン5「次世代の音楽文化の担い手の育成」	・普及啓発事業の入場者数平均580名	・平均入場者数 442.3 名▲
・ OSAKA SHION WIND ORHESTRA 鑑賞会への協力（共催：ホール無償貸与）	・のべ 4000 名来場を目標とする。(助成事業対象外)	・のべ 2840 名来場 （希望が少なかった）
●ビジョン7 「経営基盤の安定化」 ・有料会員数 ・大阪府市からの助成金獲得	・前年度の 3,803 名から 4,000 名への増加を目指す。	・4009 名◎
・オフィシャルスポンサー、サポーターの維持。	・500 万円 ・1600 万円	・500 万円◎ ・1600 万円◎

（※4）・（※5）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	地域文化拠点として、地域アーティストとの協働を積極的に進め、公演事業 10 事業のうち 4 事業、普及啓発事業では 5 事業すべてにおいて地域人材の起用を実現し、地域資源を生かした事業展開を着実に推進した。また、「誰もがクラシック音楽に親しめる音楽文化の拠点」を目標に普及啓発事業を展開し、平均入場者数は目標値に届かなかったものの、継続的な事業実施を通じて幅広い層への鑑賞機会の提供を継続した。さらに、次世代育成に関わる事業への協力や、Osaka Shion Wind Orchestra 鑑賞会への協力など、地域の音楽文化の裾野を広げる取り組みも行った。 さらに、貸館事業においては、利用者ニーズに応じた柔軟な運用や各種利用促進策の実施により高い利用実績を確保し、地域の音楽・文化活動を支える拠点としての機能を一層高めた。主催・貸館を含めた年間入場者数は 10 万人を回復し、地域文化拠点としての社会的役割と存在感をあらためて示す結果となった。あわせて、有料会員数は 4,009 名と目標を達成し、大阪府・大阪市からの助成金獲得、オフィシャルスポンサー・サポーターからの支援維持も目標を達成した。地域からの継続的な支持と多様な支援基盤を確保したことは、地域文化拠点としての確かな信頼性と持続可能性を裏付ける成果である。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・(プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・(アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
●ビジョン4「『誰もがクラシック音楽に親しめる』音楽文化の拠点」 ・普及啓発事業における入場者数 ・スタッフ研修：障がい者接遇講習会受講割合	・要望書、交付申請書記載の入場目標値 ・レセプショニストを含めて、80%以上	・要望書、交付申請書記載の入場目標値 ・レセプショニストを含めて、公演に携わったスタッフ 97.2%◎
●ビジョン5「次世代の音楽文化の担い手の育成」 ・公演事業１１公演におけるユースシート（18 歳以招待待)、U-30 (30 歳以下特別価格）の利用者数の合算。 （参画者の多様さ）	・各公演平均３８名を目標とする。 ・アンケートにより、計測する （年齢、性別、居住都道府県） →近畿圏以外の地域から来場があるか。 →来場者の年齢層は幅広いか。	・各公演平均 27.9 名○ ・アンケートにより、計測する （年齢、性別、居住都道府県） →近畿圏以外の地域から来場があるか。○ →来場者の年齢層は幅広いか。○

（※3）・（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	多様な人々に開かれた音楽文化拠点を目指し、鑑賞機会の提供と受け入れ環境の整備を両面から進めた。普及啓発事業を継続的に実施し、幅広い層にクラシック音楽へ親しむ入口を提供するとともに、ユースシート（18 歳以下招待）および U-30 制度（30 歳以下特別価格）を通じて、若年層が優れた実演芸術に触れる機会の拡充に努めた。若年層施策の利用は継続的に見られ、次世代の観客育成に向けた着実な導線形成が進んでいる。 また、障がい者接遇講習の受講率は 97.2%と高い水準を達成し、来場者を受け入れる人的環境の整備も着実に進展した。さらに、アンケート結果からは近畿圏外からの来場や幅広い年齢層の参加が確認されており、居住地や世代を超えて多様な来場者に開かれたホールとしての役割を果たしている。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※2）
	・「地域の音楽文化の拠点としての役割」として、来場者が何を求めているか。

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
・主催公演アンケートの自由記述欄の分析 ・モニター（住友生命）へのヒアリング ・アンケートのクロス集計で、来場者の層分類と来場傾向の分析	アンケートの詳細な分析と、ヒアリングを組み合わせ、「地域の音楽文化の拠点」としてのあるべき姿のアップデート、ミッション・ビジョンのブラッシュアップを目指す	主催公演アンケートの自由記述欄について、内容分類および記述傾向の分析を実施。 モニター（住友生命）へのヒアリングを通じ、鑑賞体験や来場動機に関する定性的意見を収集。 全公演アンケートについて、情報入手経路、年齢層、来場回数、満足度の基礎集計およびクロス集計を実施。 広報・広告実績（記事露出、広告回数、経費）との比較分析を行い、来場動向との関連を検証。 分析結果をもとに、ミッション・ビジョンおよび今後の広報戦略の再整理に着手。

（※3）・（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	主催公演アンケートの自由記述分析、モニターヒアリング、来場者属性のクロス集計を通じて、地域の音楽文化拠点として来場者が求める価値の可視化を進めた。その結果、高年齢層の安定した支持基盤、中堅世代におけるデジタル接点の有効性、若年層における教育機関・出演者・口コミを起点とする導線形成など、世代ごとに異なる来場構造が明らかとなった。さらに、来場は単なる認知ではなく、複数回の情報接触の蓄積によって形成される傾向が確認され、従来の一律的な広報設計から、対象層別の接点形成へと発想を転換する重要な知見を得た。これらの成果は、当ホールのミッション・ビジョンを実証的に更新し、地域の音楽文化拠点としての将来像をより具体的に描く基盤となった。

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※１）・（※２）…R７年度評価補助シートから転記すること。

※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈（ア）～（エ）〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※１）	収支バランスを考え、無理のない予算計画を立案している。助成金、協賛金の獲得に務めている。	専任の職員を配置し、計画的な広報を実施している。より効果のある媒体を活用する取り組みを進めている
目標(値)（※２）	貸館利用数の改善により、収入の増収を見込んでいる。	チケット収入の増加を目指す。
実績(値)	予算を着実に執行するとともに、貸館利用の大幅な増加による事業収入の確保、有料会員数の目標達成、助成金・協賛金の継続的な獲得を通じて、安定的かつ多角的な財源基盤の強化を図った。	専任職員を中心に計画的な広報・営業活動を展開し、紙媒体に加え Web、SNS、動画等を活用した多面的な情報発信を推進した。あわせて、来場者分析を活用し、効果的な集客基盤の強化を図った。
団体の自己評価		

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※１）	企画により、アーティストの招聘を共同で実施するなど協力。	設置者である住友生命から出向者を受入れ。綿密な意思疎通と財源確保ができている。
目標(値)（※２）	今後も緊密な連携を維持する。	今後も緊密な連携を維持する。
実績(値)	文化団体や音楽事務所との連携・協力を継続し、地域人材の活用や協働事業を通じて、事業の充実と地域文化の振興を図った。また、3 団体連携による西村朗作品を軸とした企画を実現するなど、広域的な文化発信にも取り組んだ。	設置者である住友生命と緊密な連携を維持し、人的支援と安定した財源確保のもと、計画的かつ継続的な事業運営を実現した。
団体の自己評価		

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ) ～ (セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	音楽アドバイザー堀朋平、いずみシンフォニエッタ大阪音楽監督藤倉大ら専門家と協働。	上記（エ）の通り、経営は住友生命からの出向者が担っている。
目標(値)（※2）	今後も緊密な連携を維持し、専門家との共同で公演の芸術性を担保する。	今後も緊密な連携を維持する。
実績(値)	音楽アドバイザー堀朋平氏、いずみシンフォニエッタ大阪音楽監督・藤倉大氏ら専門家との協働のもと、芸術性の高い企画制作を推進し、独自性と国際的発信力を高める成果を上げた。	設置者との連携のもと、安定した経営基盤を維持しつつ、会員基盤の拡充、助成金・協賛金の確保、貸館利用促進による収益改善など、中長期的な視点に立った運営を着実に進めた。
団体の自己評価		

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	企画・広報に専門人材を配置、OJT を基本とした人材育成に勤めている。	上記（オ）～（キ）の通り、人材を配置、それぞれの職務内容ごとに指導、役割分担がなされている。
目標(値)（※2）	スムーズな世代交代ができるよう、人材育成を図る。	適切な人事異動を実施し、バランスよくプロフェッショナル人材育成する。
実績(値)	各部門に専門性を有する人材を配置し、OJT を基本とした人材育成を継続するとともに、将来を見据えた人材確保と組織体制の強化に向けた準備を進めた。	各職員の専門性や役割に応じた業務分担のもと、部門間の連携を図りながら効率的かつ円滑な組織運営を行った。
団体の自己評価		

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	計画的に若年層の採用を進めている。	女性リーダー職の割合は 60%。今後も実力に応じた登用を進める。
目標(値)（※2）	適切な世代間バランスを保つよう努める。	適切なバランスを保ち、人材育成を実施する。
実績(値)	各世代の職員がそれぞれの経験や専門性を生かしながら業務を担い、将来を見据えた人材配置の検討を進めつつ、安定的な運営体制の維持に努めた。	多様な職員がそれぞれの専門性や経験を生かしながら業務に取り組める組織運営に努めた。
団体の自己評価		

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	各種休暇等、支援制度を整備、推進している。	専門の管理職を配置、情報セキュリティの保持、コンプライアンス遵守に努めている。
目標(値)（※2）	引き続き職場環境の維持に努める。	引き続き、水準を維持する。
実績(値)	各種休暇制度や支援制度を適切に運用し、職員が安心して働き続けられる職場環境の維持・向上に努めた。	情報セキュリティ対策を含む各種コンプライアンスの遵守に努め、適切な管理体制のもとで安全かつ健全な事業運営を継続した。
団体の自己評価		

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	グループ会社で内部通報制度を確立、ハラスメント防止に努めている。	適正な契約事務を遂行している。
目標(値)（※2）	研修内容の充実を図る。	引き続き、適正な契約事務を遂行する。
実績(値)	内部通報制度や相談体制の整備のもと、ハラスメント防止に向けた周知と適切な職場環境づくりを継続した。	契約事務を適正に執行し、透明性と公正性を確保した事業運営を行った。
団体の自己評価		

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
令和 7 年度は、住友生命いずみホールがこれまで培ってきた芸術的蓄積を礎としながら、新たな創造への歩みを力強く示した一年であった。主催公演においては、多彩な自主企画を通じて、それぞれの事業目的に即した高水準の舞台を実現するとともに、いずみシンフォニエッタ大阪における新体制の始動や、「バッハ 2025 綾なす調和」シリーズなど、独自性と高い発信力を備えた企画を世に送り出した。公演内容に対する来場者の満足度も総じて高く、本ホールのミッション「世界とのドア」を具体的な成果として示すことができた。 また、ミッション「地域とのつながり」について、地域人材の積極的な起用、次世代育成への協力、貸館事業を通じた地域文化活動への貢献など、多面的な取り組みを継続的に展開した。主催・貸館を含めた年間入場者数が 10 万人を回復したことは、当ホールが地域文化拠点としての役割と存在感を改めて示す象徴的な成果と言える。 さらに、来場者アンケートの分析を通じて、情報接触の蓄積が来場動機の形成に寄与していることや、一定の新規来場者層の獲得につながっていることなど、広報・営業施策の成果と課題も可視化された。紙媒体を中心とした従来の広報に加え、Web、SNS、動画等を組み合わせた多層的な情報発信の基盤整備も進み、今後の展開に向けた土台を築くことができた点も大きい。 運営面では、会員基盤の拡充、助成金・協賛金の確保、専門性を活かした安定的な組織運営を通じて、持続可能な経営基盤の強化を図った。今後も、芸術性と公共性、独自性と開かれた親しみやすさを両立させながら、多様な人々が音楽と出会い、深く親しむことのできる場として、独自性ある音楽文化の創造と発信に取り組んでいきたい。

備考